

# Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Spring/Summer 2019



## Contents ー目次ー

1. Reports ー和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告を紹介ー
2. Topics ー過去のイベントとニュースー
3. Future Events ー今後のイベント紹介ー

## ■ 近畿自治体フォーラムに参加して

新谷 ほのかさん (学部4年生 / 広島市立舟入高等学校出身)



2018年11月17日に行われた、近畿自治体フォーラムに参加し、観光学部のLIPである「棚田ふぁむ」の活動について発表させていただきました。本フォーラムでは、『若者、移住者が地方を支える、守る…そして未来へつなぐもの』というテーマで、都市計画を専門とされている西村幸夫先生の講演や、学生の事例発表、地域の課題を語る円卓会議が行われました。

「棚田ふぁむ」は、8年前に和歌山県で開催された全国棚田サミットを機に誕生し、『学生との協働による継続的な棚田保全活動体制の構築』を目的として、和歌山県有田川町沼地区で活動を行っています。メンバーもだんだんと増え、今年度は30名を超える大所帯になりました。最近、耕作放棄地での水稲・野菜の栽培、地域の一大産業である山椒の収穫支援、お祭りへの参加など、地域の方々との交流を中心に、月に1、2回活動しています。先輩方が始められた活動が定着してきた一方で、活動がマンネリ化してきている、地域にとって本当に必要なことができていないのかといった課題が出てきました。また、現地までの送迎や準備等、行政の支援なしでは活動を行うことが難しいといった現状もあります。これらの課題に対して、様々な形で地域に関わっておられる方々からコメントやアドバイスを頂くことができました。1つ目の課題については、メンバーそれぞれが持っている思いやアイデアを共有する機会をしっかりとつくるのが欠かせないこと、そして2つ目の課題については、行政の方々も協働しながらも主体をどこに置くかが重要であるということ学びました。活動を外から

見て評価してもらうことで、やっぱりそうなのかという再確認や、私たちが意識していなかったことに気付かせてもらったと思います。

また、和歌山県立医科大学の学生の発表を聞かせていただいたり、学生の方から私の発表に対して質問してくださったりしたことも貴重な経験になりました。普段地域で活動している学生との交流は、LIPやゼミなど観光学部内で留まることが多いですが、同じように地域で活動している他大学や他学部の学生と意見交換や交流がもっとできたらいいなと思いました。

今回の発表は、活動の歴史や現状を改めて整理する大変良い機会にもなりました。これらを後輩たちにしっかり引き継ぐことが必要だと思います。そしてもうすぐ迎える棚田ふぁむ結成10周年に向けて、もう一度私たち学生が活動している意味を確認したいです。

## ■ ルイ・タック・ユー駐日シンガポール大使との懇談会に参加して

服部 峻英さん (学部2年生 / 名古屋市立名東高等学校出身)



今回、私たちは、ルイ・タック・ユー駐日シンガポール大使と交流するという貴重な経験をさせて頂きました。近年、シンガポールは急速な経済成長を遂げており観光業という視点からも世界中から注目されている国です。私たちは観光学部生としてそのような国の大使と交流することができるということで、事前にシンガポールについての勉強会を行いました。そこで、シンガポールについての基本的な情報や歴史を学び、自分たちが疑問に思うことや大使に聞いてみたい質問を考えたくらいで、懇談会に参加しました。

交流はすべて英語で行われ、自分の言いたいことが上手く伝えられるか不安でしたが、大使はとても親切に対応してくださる方で、場の雰囲気も良く、すべての質問に丁寧に答えて頂きました。自分自身、外交官という職について興味があったのでそのことについての質問をしました。すると、大使は「外交官として国を代表することは名誉なことだと思う。外交官でなくても国を代表することはできるが、現在は大使としてシンガポールを代表して日本にいて大きな責任がある。」また、「日本人はシンガポール人に比べて海外に行く人があまり多くないため、日本人にとって日本で出会う外国人はその国に対する印象を構成するのに大きな影響がある。」とおっしゃっていました。実際に、大使の意見を伺って、自分が思っていた以上に外交官は責任を伴う職であることが伝わってきました。現在も現役に働いているシンガポール大使からそのような貴重な意見を聞くことができ、とても自分のためになったと思います。

今回の懇談会は30分程度と非常に短い時間でしたが、和歌山大学の観光学部生としてシンガポールの大使と直接お話することができたことを誇りに思います。今回のために、貴重な時間を頂いたルイ・タック・ユー駐日シンガポール大使をはじめ、懇談会を設けるにあたって尽力頂いた方々には感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

➔ <https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2018122600068/>

## ■ 2018 年度宿泊研修

小熊 嶺さん (学部3年生/新潟県立新発田高等学校出身)

宿泊研修とはなんだ、と思う方は多いでしょう。宿泊研修とは、観光学部の新入生に観光学部生としての自覚を持ってもらうために企画されており、ただ観光地に観光客として訪れるのではなく、観光客のためにどんな工夫がされているか、改善すべきところはないか、地域の特色を活かしているかなど、さまざまな視点から観光地を見てもらえるようになればと考えています。これらの視点は観光学部生として観光を学んでいくにあたって非常に重要なものになります。この研修を通して観光を学ぶとはどういうことなのかについて考えるきっかけになって欲しい、また、和歌山大学にきたからこそ和歌山の観光地を少しは知っておこうという目的のもと2回生の25人のスタッフが運営を行いました。具体的な活動内容は、プランの作成、移動時のバスの中でのレクリエーション、夜の宴会の企画・運営、旅のしおりの作成、事前事後学習などです。

2018年度の宿泊研修のテーマは、『わかやま「(わ)っ!と驚く魅(力)が(やま)ほど!〜五感で感じる世界的観光地和歌山』です。今回の研修旅行では、湯浅の重要伝統的建造物群保存地区を歩いて回りながら湯浅の醤油や金山寺味噌を使った季節ごとの会席料理を食べ歩くツアーが視覚、味覚、嗅覚の3つを満たせるし、醤油工場で醤油の作り方や歴史を学んだ後にそれを実際に味わえることが個人的にとってもいいと思いました。

今回の研修では、全体的にはうまくいったのですが、課題もいくつかありました。まず、高速道路の渋滞です。バスでの移動時に渋滞になることは想定できていなかったものでそのあとに訪れたスポットの滞在時間を大幅に減らすしかなくなってしまい、新入生や先生方に大変な思いをさせてしま

いました。他にも新入生とのコミュニケーションが足りていない部分などもあったかなと思いました。

私は2018年度宿泊研修のスタッフのリーダーをやらせていただいて、集団をまとめることの大変さを痛感しました。私はラグビー部に所属していて、もう上回生になって下の学年を引っ張っていかねばいけないのでこの経験はそれにも役立つと思うし、今後何かのリーダーをやることはまたあると思いますがそのときにも今回の経験を活かせたらいいと思います。



## ■ 2018 年 和歌山大学・慶北大学学術交流ワークショップ

金 珉廷さん (学部3年生/水原網浦高等学校 (韓国) 出身)

私は2年生の秋、とても貴重な経験をさせていただきました。それは、和歌山大学の提携大学でもある韓国・慶北大学と和歌山大学観光学部で開催した「2018年 和歌山大学・慶北大学学術交流ワークショップ」での「通訳」の仕事でした。私の担当は日本語を韓国語に通訳することで、学術交流会の際に慶北大学の学生が準備したプレゼンテーションを逐次通訳していきました。事前にもらっていた原稿と少し違ったり、順番が変わったりするなど本番で戸惑いましたが、自分なりにわかりやすく伝えるために頑張りました。

学術交流会の後、フランクな雰囲気の中で自由に会話を進める形式で相互の文化についてのディスカッションを実施しました。その時に、日本人と韓国人の間で言語の壁が感じれないよう、両方の通訳をしました。自分たちが好きなテーマで話をしていた、とても盛り上がり、会話を楽しむことができました。

全体的に感じたことは、【外国語が話せること】と、【通訳をすること】は全く違うことだということです。当日まで、私は「今まで日本語が話せなくて、もしくは聞き取れなくても、困ったことはなかったからなんとかなるんじゃない?」という甘い考えでいましたが、いざ、その場に立ってみて、みんなの注目を浴びながら話そうとしたら、頭の中でどういう風に通訳すればいいのかわからなくなりました。その場に立ったからこそ、通訳の大変さがわかったのです。特に、少し長めの文章を通訳するときに途中で単語を忘れたりしたので、メモ帳を使って細かくメモしたほうが良かったと反省もしました。細かく通訳しなくてもいいのに、焦ったために、すべてを通訳して言ってしまったのでそれも改善すべきところだと思いました。

(次ページへつづく)





交流会の後、学術交流ワークショップに参加した日本人・韓国人の学生達と夜ご飯を一緒に食べに行ったのですが、そのときの交流をきっかけに、今も連絡を取っているほど仲良くなれました。通訳という新しい経験をしたこともとても忘れられない思い出でしたが、人々と新しい出会い、経験を共有し合って楽しい時間を過ごせたこと、そして文化を含めた様々なことをお互いに理解し合える日韓交流の場に参加できたことにとても感謝しています。またこの様なイベントに参加することができれば是非とも参加したいと思っています。ありがとうございました。

## ■ 日本での留学生活

■ ルイズヤン アルワニさん (学部2年生 / SULTAN ALAM SHAH ISLAMIC COLLEGE (マレーシア) 出身)



まるで昨日のこのように日本へ来た時のことを覚えています。和歌山大学に入学してから1年、その間にいろいろなことを経験して、いろいろな人と出会って来ました。二年前高校を卒業したばかりの私は、全く日本語が分からず、平仮名から勉強を始めましたが、今こうして日本で勉強していることが夢のようです。

私は子供の頃から日本に興味があり、ここで勉強ができればいいなど何回も思っていました。最初は無理だと思っていましたが、頑張って勉強したおかげで私はマレーシア政府の奨学金を受けて日本に留学することができました。私は旅行が好きで、いろいろな場所へ行き、異文化を理解して、世界を様々な角度から見られるようになりたくて観光学部に入学することにしました。

和歌山大学は私が思ったより小さくて、美しいです。大学での勉強は面白くて、先生たちも指導力がある方々だと感じます。

今、私は観光学部のGPというプログラムに参加しています。GPの授業は英語で行われますが、私は日本語力も必要だと思っているので日本語で行われる授業も受けて、どちらの言語力も徐々に上達させることをねらっています。

大学生活では、常に新しいことに挑戦していると感じます。一人で生活するのは初めてで、自分でやらなければならないことが多くて、不安でしたが、先輩たちや観光実践教育サポートオフィスの方々などのおかげで日々の生活を安心して送ることができています。日本人の友達もすごく優しく、たくさん日本社会のマナーを教えてくださいました。今は日本での生活にますます慣れて来て、楽しく過ごすことができています。

日本についてはまだ知らないことがたくさんありますが、残りの3年間を無駄にしないように頑張って勉強します。



## ■ GIP (Global Intensive Project) ～ Chiang Mai & Chiang Rai, Thailand (Global Learning Advanced)

タイ CBT プログラムに参加して

■ 関戸 麻友さん (学部3年生 / 石川県立小松明峰高等学校出身)



私はタイ北部におけるコミュニティーベース学習プログラムに13日間参加しました。現地では3つのツアープログラムを体験し、タイでのCBTの実態を学びました。体験する内容はもちろん、訪れる場所によって文化歴史が異なり学びが充実していました。中でも印象に残っているのが、ダークツーリズムとして日本兵とタイ・メーホンソン県とのつながりを学び、様々な場所を巡ったことです。日本兵が戦争中にキャンプ地として、生活していたその当時の様子や実際に使われていた軍服や兵器などが展示されているメモリアルホールや、日本兵の慰霊碑など形として残されているものが多く、日本から遠く離れた土地にこのような場所があることに感慨を受けました。当時日本兵と共に生活し再会を願うおばあさんやお店の売り子だった方など、当時の貴重なお話もたくさん伺いました。温泉や食べ物の面で日本兵がタイの人に与えた影響は今でもその土地の文化として根付いていました。このように歴史や文化が語り受け継がれていることから、当時から今でもタイと日本との関係性は続いていると感じる場面が多くありました。

訪れたどの地域の村の方々も私たち日本人を温かく迎えてくれ、来てくれてありがとうまた来てね、と言ってくださいました。村を挙げて観光に力を入れているCBTであるからこそ、人との交流が多く様々な出会いや暮らし、文化に触れることができた13日間でした。ホームステイも3つの家で体験しましたが、民族の伝統的な歓迎から始まり毎回たくさんのお料理を振舞ってくれ、多種多様な経験をさせていただきました。タイの発展したCBT体験を通して、日本の観光業との比較や優れた点、様々な課題が見えてきました。このタイCBTプログラムでの学びを今からの勉学に反映させ、励んでいこうと思います。



## ■ 地域インターンシップ Local Internship Program (LIP)

「地方創生にかかる地場産物商品に関する調査・研究、デザイン考案等」(大阪府阪南市)

山田 佳乃子さん(学部3年生/大阪府立和泉高等学校出身)

私たちは、大阪府泉南地域に位置する阪南市の特産品を活用した新たな商品を考案し、阪南市内の事業者、商工会の方々に提案するというを主として1年間活動してきました。

商品の考案にあたっては、阪南市や阪南市の特産品の調査を行いました。阪南市の特産品の特徴としては、泉だこをはじめとした水産物、玉ねぎやなすといった農作物等、食品に分類されるものが多く、おかきや日本酒といった加工食品も生産されています。実際に販売されている商品をいただく機会があり、品質や味の良さに驚きました。しかし、多くの特産品が「阪南市のものである」ということを知られておらず、商品案にはそれを解決する要素を盛り込む必要があると考えました。

次に、各メンバーが10個ほどの商品を考案し、合計100個以上の案を阪南市の方々に提案しました。商品案は、阪南市の方々と会議を重ね、実現性や学生以外の視点、私たちが伝えたいことは何かということ踏まえ、最終的には9個選出しました。商品案のブラッシュアップのため、昨年11月4日に行われた「第18回はなん産業フェア<秋の陣>×阪南うまいもん市」等のイベントでアンケートを実施し、商品案への興味や、土産物に関するデータを収集しました。

アンケート結果を取り入れ、ブラッシュアップした後、9個の商品案についてプレゼンテーションを行いました。事業者、商工会の方々からは、現場の事情や考えを含めて様々な意見をいただき、大きな学びとなりました。また、実際に商品化したいという声もあり、今回は実現まで至らなかったものの、1年間の活動が次に繋がっていく達成感も得られました。

現在、多くの地域は観光や地域振興のため、若者の発想を求めています。しかし、発想だけでは十分とはいえず、それを実現する環境や現実を知る地域の人々の協力が必要です。このLIPを通じて、地域をより良くしたいと思う地域の方々が多くいることを知り、それを学生にも知ってほしいと考えました。講義等で得た知識を現場で活かし、その経験を今後の勉学の糧にすることを、是非、大学生の間にたくさん実践してほしい、そして、自らも続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、1年間お世話になった阪南市の方々、教員の方々、メンバーに心から感謝を申し上げます。



## ■ 地域インターンシップ Local Internship Program (LIP)

「地域の文化や風習、そこで暮らす人々と直にふれあいながら、

これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える」(和歌山県東牟婁郡那智勝浦町)

藤原 葉月さん(学部3年生/鹿児島県立甲南高等学校出身)

和歌山市から電車で片道約4時間、さらにバスで山を登ったところに那智勝浦町の色川地区があります。アクセスの良い場所でないからこそ、他地域になくなってしまった多くの伝統や風習が、この地区には色濃く残っています。

本LIPは「地域の文化や風習、そこで暮らす人々と直にふれあいながら、これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える」というテーマのもとで活動しています。私たちはそれぞれの興味・関心によって、地域で何をしたいか、何をすべきかを考え、地域の方々の協力もいただきながら様々なことに着目した活動を展開しています。本年度は、獣害、防災、地域の伝統などを個人の活動目的とし、学生間で考えや情報を共有しながら進めていきました。

これらの活動目的は、農業が中心の地域で獣害対策について考える、紀伊半島大水害での被害・防災の現状を知り、これからの防災について考える、人口が少なくなる中で、地域の伝統や風習をどのように守っていくか・受け継いでいくかを考えるというように、地域の生活と密接に関わる問題を地域の方々と学生と一緒に考えることができます。地域の方々と一緒に問題を考えることが、学生にとっては地域ならではの問題を実践的に考える、とても貴重な機会となっています。

私自身は、地域の伝統や文化について興味を持ち、この1年間向き合ってきました。その中で地域の伝統行事へ参加したり、郷土料理作りを体験したり、地域の方々の伝統や文化に対する考えを伺ったりする機会がありました。人口減少、移住者を受け入れるという問題に直面しながらどのようにすべきかという地域の方々の考えに触れ、自分は何ができるのか、学生・よそ者の立場

(次ページへつづく)







としてはどうするべきなのかについて深く考えました。この経験は、これからの大学生活で何を中心に勉強したいのかを見つけるとても大きなきっかけになったと考えています。

那智勝浦町 LIP は 4 年目に入ります。地域の方々の協力も得ながら、試行錯誤して良い活動にしようと思ってきました。本 LIP に参加する一人一人の目的が明確になってきており、これまでの地域の問題について考えていく人と新たな問題に向き合っていく人それぞれが目的に向かって考え、考えを共有していくことで、さらに活動的な LIP になっていくのではないかと考えています。

## ■ 日本国際観光映像祭について

小池 夏海さん (学部3年生/大阪府立天王寺高等学校出身)



日本初となる「観光」に関する映像の祭典「日本国際映像祭」が、2019年3月13・14日の2日間にわたり、大阪で開催されました。開催に先立ち、約半年前から学生メンバーが決まり、まずは映像を探して、映像祭に申し込んでもらえるよう依頼するところから活動がスタートしました。

開催当日は、初めての映像祭ということで、誰もが要領が分からず戸惑うことがたくさんありました。例えば、ポルトガルから来日された教授が英語で発表をする際、同時通訳をするようにと直前に頼まれ、初めて通訳というものを経験しました。初めてのことでやり方がわからなかったのでメモを取ることもせず、ひたすら教授の言葉に耳を傾けて話を聞いていました。この際、通訳はただ和訳するだけでなく、話の順序を自分で組み立てて聞き手に分かりやすく伝える力が必要であることを感じさせられました。決して上手な通訳ではなかったですが、このような機会をいただいたことで臨機応変に動く力、そして不測の事態にも勇気を持って挑む力が身についたと思います。また、舞台上に上がって通訳するという大変貴重な経験をすることができました。

開催初日の夜にはレセプションパーティーが開かれ、100人以上もの来場者をお迎えしました。参加者の方々はそれぞれ名刺交換をされており、とても社交的で活発な交流がありました。また、私たち学生も様々な職種の方々とお話をすることができ、就職活動について語るなどしたことで来年から本格的に始まる就職活動への具体的なイメージが湧き、とても良い社会勉強になりました。

映像祭全体を通して、ポルトガルからお越しの教授、また、台湾、フィリピン、インドから来日された映像クリエイターの方々と関わる機会があり、お迎えに行ったり、昼食を食べる場所を案内したり、通訳したりと、観光学部生としておもてなしをする力が問われました。映像祭2日目の終了後、台湾人映画監督のジェイ・チェン監督から「グッド・おもてなし」と言ってもらえた時はとても嬉しかったです。

映像祭後、日本各地、台湾、インド、クロアチアなど各国で新聞やネットニュースに掲載されているのを見て、改めて、今回のプロジェクトが大きなものであったということを実感しました。記念すべき第一回目の映像祭立ち上げに携わることができ、イベントを運営するという点、臨機応変に動く点について学ぶことができ、大変勉強になりました。今回学んだことをしっかりと記憶に留め、これからの大学生活に活かしていきたいと思います。今回の映像祭を開催するにあたり、木川先生をはじめ観光学部サポートオフィスの皆様にはご指導いただきありがとうございました。

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019022700025/>

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019032000016/>

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019032000023/>

### ■「和歌山大学観光学部 ミニ・オープンキャンパス in 東京」を開催しました！

2018年12月1日(土)、フクラシア品川クリスタルスクエア(港南口)3階会議室J(東京都港区)にて、「和歌山大学観光学部 ミニ・オープンキャンパス in 東京」を開催しました。

今回は、学部紹介に加えて、模擬講義「観光とサステナビリティ(加藤久美教員)」で大学の授業の雰囲気、特にグローバル・プログラム対象科目の英語による観光学の授業を味わっていただいたほか、本学部での学びや国内外での様々な活動、そして進路等について、在学生ならびに卒業生に直接質問できる「観光実践教育サポートオフィス presents 学生&卒業生に聞こう! ~和歌山大学観光学部で学ぶということ」を実施。3グループにわかれて、ホームページや資料だけではわからない、学修や学生生活、入試の体験談などの活発な意見交換が行われました。



### ■ KAKEHASHI Project - 日系アメリカ人大学生 50名との交流会を実施しました！

2018年12月18日(火)、日本政府が推進する国際交流事業「対日理解促進交流プログラム」の一環である「KAKEHASHI Project」として、アメリカ合衆国より50名の大学生と関係者が来学しました。観光学部生らが司会、学部紹介を担当してお迎えし、東悦子教員によるミニレクチャー「移民と和歌山」、永井隼人教員による「Tourism and Mega-events in Japan」の講義を学部生と共に受講しました。その後、授業テーマに関するディスカッションやランチタイムを通して相互の交流を深めました。



### ■ 「2018年度観光カリスマ講座」「地域活性化システム論 2018」を開催しました！

2018年10月から2019年1月にかけて「2018年度観光カリスマ講座」を和歌山県との共催で実施しました。同講座では、各方面で活躍する「観光カリスマ」や成功モデルと評価されている観光地・観光ビジネスのキーパーソンを講師として招聘しています。11年目となった今年度は、全5回延べ406名が受講しました。和歌山県をはじめとする地域の観光振興とまちづくり再生を探る良い機会となりました。

また、2018年11月17日(土)、同じく和歌山大学キャンパスにて開催した「地域活性化システム論 2018」では、本学教員4名による「観光現象と地域経営：経営、会計の役割」「観光と生活空間—住まいと民泊問題を考える—」「地域活性化を推進するビジネスモデル」・「観光をめぐる新たな潮流と地域農業・農村の変化」と題した講義を行いました。学生、一般受講者207名が受講し、「観光を通じた地域再生モデル」を鍵概念に観光戦略と観光企画の両輪から捉える地域活性化の可能性を考えました。

観光学部では、2019年度もさまざまな公開講座を実施してまいります。

各講座のプログラムなどは下記 URL をご参照ください。

- ➡ 観光カリスマ講座  
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2018083000143/>
- ➡ 地域活性化システム論  
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2018083000150/>



上：2018年度観光カリスマ講座  
下：地域活性化システム論 2018

## ■ 2018 年度学位記・修了証書授与式が執り行われました！



2019年3月25日(月)、2018年度学位記・修了証書授与式が執り行われ、観光学部生 119名、大学院観光学研究科博士前期課程 11名、博士後期課程 2名が、学士・修士・博士の学位をそれぞれ取得し、新たなステージへと旅立ちました。

和歌山市民会館での授与式に続き、観光学部棟で学部成績優秀学生等表彰（学部成績優秀者表彰（最優秀学生賞：小山裕之さん、優秀学生賞：谷上直紀さん、平井千恵さん）、卒業論文優秀表彰（最優秀賞：永野杏奈さん、優秀賞：中野美里さん、川島拓さん）、修士論文優秀表彰（最優秀賞：児嶋恵伍さん、優秀賞：高爽さん）、ピアサポート表彰（池末奈穂さん、植野日南子さん、宇治田萌さん、鈴木美穂さん、福本拓磨さん、藤田愛奈さん）が行われました。その後には、同窓会総会、謝恩会が開催され、お世話になった教職員や友人、後輩と記念撮影をするなど、学生生活最後のひと時を楽しんでいました。

卒業生・修了生の皆様のご活躍を期待しています。

## Future Events –今後のイベント紹介–

### ■ 2019 年度 LIP・GIP・GP の参加申し込み／登録が始まります！



2019年度のLIP、GIPの参加希望者向け説明会や参加申し込みの受付、またGP関係の説明会や登録手続きが始まります！

各参加／登録希望者向けの説明会は下記の通りです。ガイダンスで配布している「観光実践教育サポートオフィスからのお知らせ」もあわせてご覧ください。

■1年生対象GP説明会： 4月8日(月) 12時30分～13時 @T101教室

■3・4年生主対象Global Seminar I・II +Dissertationに関する説明： 4月9日(火) 5限 @T101教室  
※この説明会は、GP仮登録・本登録を希望する1・2年生も参考に聞いておくことをオススメします！

■GIP参加希望者向け説明会： 4月10日(水) 12時30分～13時 @T101教室

■LIP参加希望者向け説明会： 4月15日(月) 12時30分～13時 @T101教室

### ■ 観光実践教育サポートオフィス オフィスアワー「Tourism Café」& Global Programメンバー限定！「Tea Time for GP」を実施します！



2019年度より観光実践教育サポートオフィスでは、教職員と学生との自由な情報交換の場として「Tourism Café」と「Tea Time for GP」を実施します。ぜひ、お気軽にお越しください！

■Tourism Café（観光実践教育サポートオフィス オフィスアワー）：

観光実践教育サポートオフィスに集まって、教職員&学生間で情報交換しましょう！観光学部でのネットワーク、広げてみませんか？

日時：毎月1のつく平日 15時～16時

※4月は特別！4月23日(火) 15時～16時 《2019年度のLIPやGIPの情報交換をしましょう！》

■Tea Time for GP：

英語で会話したい、GPを有効活用したい、先生と話したい、他のGP生と情報交換したい、お茶したい等、どのような動機でもかまいません。GP学生のためのティータイムです。

日時：毎月5のつく平日 15時～16時

※4月は、GP対象科目の履修相談も兼ねて特別Open！

4月9日(火)～19日(金) 11:00～13:30（\*4月10日(水)はお休み。）

編集・発行

(2018年4月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学西4号館K216室、K116室

TEL/FAX 073-457-8553 / E-mail tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp / URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>